③個人追究:操作したり手かくしたりして追究し，説明する。

②学習課題：100の束から順に分けたり，答えがどこの位からたつかを考えたりして，筆算の仕方を説明しよう。

②見通し:わられる数が増えたのでどこから分けたらいいのか。

→大きな100の束から分けていけばよさそうだ。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・(2桁)÷(1桁)の筆算の仕方を操作活動と対応させながら計算したり，計算の手順をまとめたりすることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10を単位とした大きなまとまりから順に分けていくことや600÷3は100を単位として6÷3に置き換えて計算できることを学習している。

教材研究ノート№4-A-1

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの考え方にも共通していることは何だろう？」

→「100のかたまりから順に3つに分け，残った100のかたまりを10のかたまりにくずしてから3つに分けている。」

「順に下の位へばらしながら分けている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「8÷3でたてた2を100の位の8の上に書いてよいのか？」

→「8÷3は100の束8つを3等分すると，

100の束が2つずつ分けられるということ

だから，100の位のところに書いてよい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・わられる数のけた数がふえても，大きな位から順に分けていく方法で筆算ができる。

・「たてて→かけて→ひいて→おろす」の手順を繰り返している。

 2

3)834

 6 …200×3

 23

≪学習問題≫

834まいの色紙を，3クラスに同じ数ずつ分けると，

1クラス分は何まいになるのかな。

⑥定着･活用問題

(1) 642÷6の計算の仕方を色紙の束の分け方で説明しよう。

(2) 「□枚を4人で同じように分けると1人分は何枚か」の□に，100より大きい数を入れて筆算で計算し，答えを確認しよう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・およそ何枚くらいになるのか予想し，計算の結果と比べるとともに，商の確かめをさせることで，解決の過程を見直し，修正していけるようにする。

・数の形式的な操作だけにならないように具体物を使って追究し，位を下げていく意味を説明する活動を通して，2桁の筆算の考え方を使えば，同様に計算ができる意識を持たせたい。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫